

第 168 回 世界恐慌後のヨーロッパ

1 イタリアのファシズム

- ・第一次世界大戦で勝利国となったイタリアだが、領土をあまり獲得できず、ヴェルサイユ体制に不満を持っていた。
- ・また経済の混乱から北イタリアでは、社会党左派（後のイタリア共産党）の指導によりストライキが発生するなどしていた。



ムッソリーニ
イタリアの独裁者。
頭が良く演説も巧み
であった。

- ◆（ ）（在任 1922～1943 年）
- ・1919 年、ムッソリーニは、議会制民主主義を否定する（ ）
をかかげ、（ ）を結成した。
- 1922 年、（ ）を行い、国王の指示で政権の座についた。
- ファシズム大評議会を最高議決機関とし、（ ）を確立した。

<世界恐慌前のムッソリーニの対外政策>

- ・1924 年、ユーゴスラヴィアから（ ）を奪い、併合した。
- ・1926 年、（ ）に進駐し、保護国とした。
- ・1929 年、（ ）を結び、ローマ教皇と和解した。
- ローマ市内に（ ）が成立することを認めた。
- ・対外的には成功をおさめたが、世界恐慌でイタリア経済は悲惨な状況となった。



ローマ進軍

ファシスト党独自の
武装組織を黒シャ
ツ隊という。
2万人の黒シャツ
隊は、政権奪取を
目的にローマへ向
かって行進した。



ローマ式敬礼

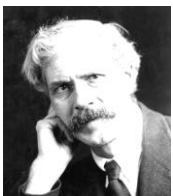
古代ローマ帝国の栄
光の復活を目指した
ムッソリーニは、右腕
を上げるローマ式敬
礼を取り入れた。
ヒトラーが真似をした
ことで有名となった。



ラテラノ大聖堂(ラテラン大聖堂)

教皇領の歴史はし
っかりおさえておく
必要がある。
どうやって成立し、
どうやって消滅し、
どうやって復活した
かまでを確認。

2 世界恐慌とイギリス

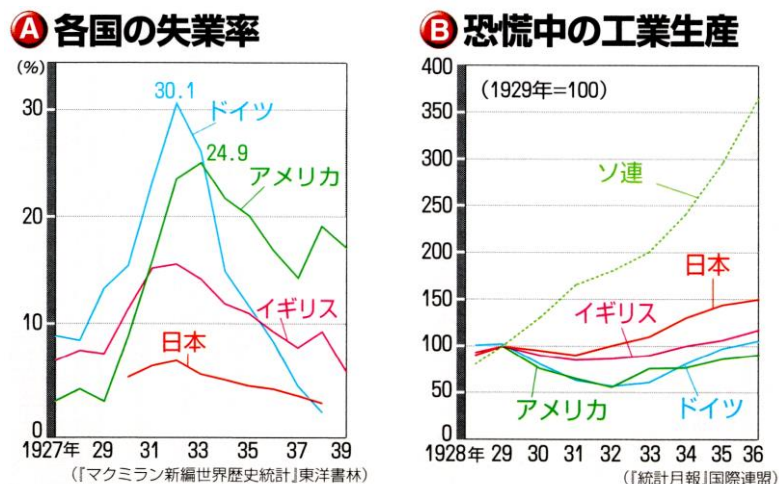


マクドナルド
失業保険の削減は
労働党内の支持を得
られず、労働党から
除名された。そこで
保守党などと組んで
再び首相となった。

- ◆（ ）（第2次）（労働党）（在任 1929～1931 年）
- ・1929 年、世界恐慌の影響からイギリスも大不況となり、失業者が激増した。
- ・1931 年、政府の支出を抑えるため（ ）にふみきった。
- 与党の労働党が反対したため、内閣総辞職となった。
- ◆（ ）（挙国一致内閣）（在任 1931～1935 年）
- ・1931 年、（ ）を行い、ポンドの切り下げを行った。
- ・1932 年、カナダで（ ）（イギリス連邦経済会議）が開
かれ、（ ）方式をとることが採択された。
- ・1933 年、ロンドン世界経済会議が開かれたが、成果はなかった。

＜ブロック経済について＞

- ・ヨーロッパの大国は、不況で自国の製品が売れないため、本国とその植民地で高い関税を設け、他国の製品が入ってこないようにした。
 - イギリスの()、フランスの()、アメリカの()などが知られている。
 - しかしドイツ・イタリア・日本など植民地をあまり持たない国は、侵略して新たな植民地を獲得することで、自分たちのブロックを作ろうと考えた。



3 世界恐慌とソ連

- ・1929年、アメリカで世界恐慌がはじまり、世界経済は大混乱となった。
→しかしソ連は資本主義経済と交流がなく、世界恐慌の影響を受けなかった。

- ・このころ（ ）は完全な独裁者となっており、スターリンへの個人崇拝が強まるとともに、反対派への（ ）も大規模に行われた。
→また少数民族の反発を恐れて、中央アジアなどへの強制移住を行った。
- ・1933年、（ ）が開始された。
→第1次五カ年計画の反省から、多少は消費物資の生産も配慮された。
- ・1933年、（ ）大統領時代のアメリカが、ソ連を承認した。
→1934年、ソ連の（ ）加入が認められた。
- ・1936年、（ ）が制定された。
→信教の自由や民族の平等など民主的な内容だったが、スターリン本人に守るつもりが全くなく、ロシア共産党の一党独裁も変わりがなかった。
- ・1938年、第3次五カ年計画が開始された。



スターリンは、トロツキーの写真を消す一方で、あたかも自分とレーニンが親しかったかのような写真を公開していた。



スターリンは、自分が聖人であるかのようなポスターや映画をたくさん作った。世界史上でも屈指の「ヤバイ」性格の人物である。



実態は今もって不明だが、約 1200 万人が逮捕され、少なくとも 300 万人が殺されたとされる。これらは 1956 年のフルシチョフによるスターリン批判以降、徐々に明らかになった。